

とみたか 待望の糸桜系基幹種雄牛「登美貴」登場！

福島県畜産試験場



「モモヌケすごいね、これ、登美貴？」

唐突に、血統などの説明もない種雄牛紹介となりましたが、これが「登美貴」産子の枝肉を見たときの第一声でありました。

場所は仙台中央食肉卸売市場、モモヌケ(モモまでサシが入っていること)することで人気を博す宮城県の「茂金(波)系」種雄牛産子の枝肉が多数並ぶなか、それらと同じあるいはそれ以上の芯ザシとモモヌケの良い「登美貴」産子の枝肉を目のあたりにして、「これはいいぞ！新しい種雄牛誕生!!」という予感と喜びの一瞬でもありました。

「北国7の8」の血を受け継ぐ種雄牛「登美貴」

「登美貴」は、平成10年8月20日生まれで、父は強い遺伝能力を発揮し、その産子は、全国の枝肉共励会で常に上位を占めていた名牛「北国7の8」、母は登録点数83.0点と、繁殖雌牛としては非常に優れた種牛性(血統・体型・繁殖成績・産子成績等優秀であること)をもち、高等登録され評価の高かった「すみこ(父:高栄)」であります。母「すみこ」は、平成10年3月の育種価評価時に双葉畜産農業協同組合としては、第1号となる育種認定牛として選定され、そのことから「すみこ」の優れた能力をうかがい知ることができます。また、従来の「気高系」種雄牛を中心とした本県の和牛改良及び県外からの但馬系・糸桜系種雄牛の導入に加え、平成10年度からは、全国で脂肪交雑改善能力において評価の高かった「北国7の8」、「安福165の9」など多くの種雄牛が指定交配種雄牛として新たに指定され、幅広い和牛改良のスタートの時期でもありました。まさにこの時期に生まれた「登美貴」は、「北国7の8」産子種雄牛候補として非常に将来を囑望された1頭でありました。

「登美貴」産子発育良好

従来の間接検定から移行した現場後代検定(フィールド検定:一般の肥育農家による肥育成績を種雄牛の産肉能力評価に用い、肥育現場にいち早く反映させる検定法)の種雄牛として選抜された「登美貴」は、平成13年より取得交配が実施され、出生時の大きさは平均的なもので、また、子牛は5~6ヶ月時点の発育状況調査および約9ヶ月齢時の肥育農場への移管の際に評価した時点では、ほとんどが標準的発育を示し、資質、中躯の充実が特に良好であったのが印象的でした。体型的には、繁殖雌牛の影響もありますが、ややつまった「肉牛タイプ」が多く見られました。

また、繁殖・肥育農家の皆さんが多少?気になる「気性」の点ですが、「登美貴」自体も産子も「穏和」そのもので心配はなく、事実、育成・肥育時期の巡回でもそのようなクレームはありませんでした。ご安心ください。

優秀!現場後代検定成績

順調に育成された15頭(去勢10頭、雌5頭)が検定供試牛として県内の肥育農家さんによって肥育され、肥育中の牛は、雌でも深み、幅十分で、胸がつまったまさに「肥育牛」という印象でした。結果も、生体での印象を裏切らない成績で、平均で去勢は平均464.7kg、雌は430.3kgであり(去勢、雌でそれぞれ1頭ずつ食い止まりなどの影響で380kg台の牛が含まれた平均)、「肥育して大きくならないと...」という今の肥育素牛としてのニーズに十分応えられる枝肉重量であると思われます。さらに、「登美貴」の脂肪交雑能力(BMS No.:去勢6.0 雌8.4)は冒頭に紹介したように「芯ザシ」はもちろんのこと「モモヌケ」の良さに象徴され、またそれが最大の魅力であると思います。肥育された牛の中にはその母牛の育種価が判明しているものがあり、その脂肪交雑の育種価は県内の雌牛中ほぼ最下位(C)でありました。しかし、結果は、BMS 8(A-5)であり、「登美貴」が「北国7の8」の質・量兼備の強い遺伝能力を受け継いだことの裏付けと言えます。また、上物率(A-4.5率)も全体で73%と良好で、雌にいたっては100%であり、「北国7の8」の後継種雄牛として持てる能力を十分に発揮してくれるものと確信しております。

基幹種雄牛「登美貴」誕生

現場後代検定成績から全国和牛登録協会が平成17年1月に実施した育種価評価でも枝肉重量58.284、BMS1.897(BMSについては県内肥育牛の父として安平照、安平などと同等の評価)という高い評価となり、さきに開催された福島県肉用牛改良委員会幹事会(平成17年2月3日)では、基幹種雄牛として「登美貴」が承認されました。「登美貴」は第9回鳥取全共(平成19年開催)の第9区(肥育去勢牛)の種雄牛としても選ばれ、全国にその名を轟かせるべく、県下畜産関係者の皆さんとともに取り組んでいるところです。また、仙台中央食肉卸売市場での良好な枝肉成績情報が伝わり県内はもとより隣県の繁殖・肥育農家さんが現場へ多数視察に来られ、関心の高さを非常に感じております。

我々も皆様とともに喜ばれる種雄牛づくりに邁進してまいりますので、是非、質・量ともに高い能力を備えた「登美貴」に今後ご注目ください!

現場後代検定成績

性別	屠畜月齢	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	バラ厚(cm)	皮下脂肪厚(cm)	歩留基準値(%)	BMS No.	BCS No.	上物率
去(10頭)	28.1±0.8	464.7±44.8	55.8±7.8	8.3±0.9	2.0±0.6	74.8±1.2	6.0±2.3	3.7±0.8	60%
雌(5頭)	31.1±1.2	430.3±31.3	57.4±3.6	8.0±0.8	3.6±1.1	73.7±0.9	8.4±1.1	3.4±0.5	100%
育種価		58.284	8.585	1.221	0.124	1.191	1.897		

今回の系桜系種雄牛「登美貴」誕生により、気高系「景東」、但馬系「照隼福」と3系統の種雄牛がそろい、凍結精液の供給には万全の体制が整いました。今後とも、県有種雄牛のご活用をなにとぞよろしくお願い致します。